

丹波高原につつまれ 人の交流・連携で築く めくもりと躍動のあるまち

広報 京丹波

No.12
2006年
10月15日発行

KYOTAMBA TOWN

[特集] 平成17年度まちの決算 総額118億円

華麗にバトンパス

運動会の花形競技といえばやっぱりリレー。クラスが一致団結し、バトンをつないでいました。(蒲生野中学校体育祭でのひとコマ)



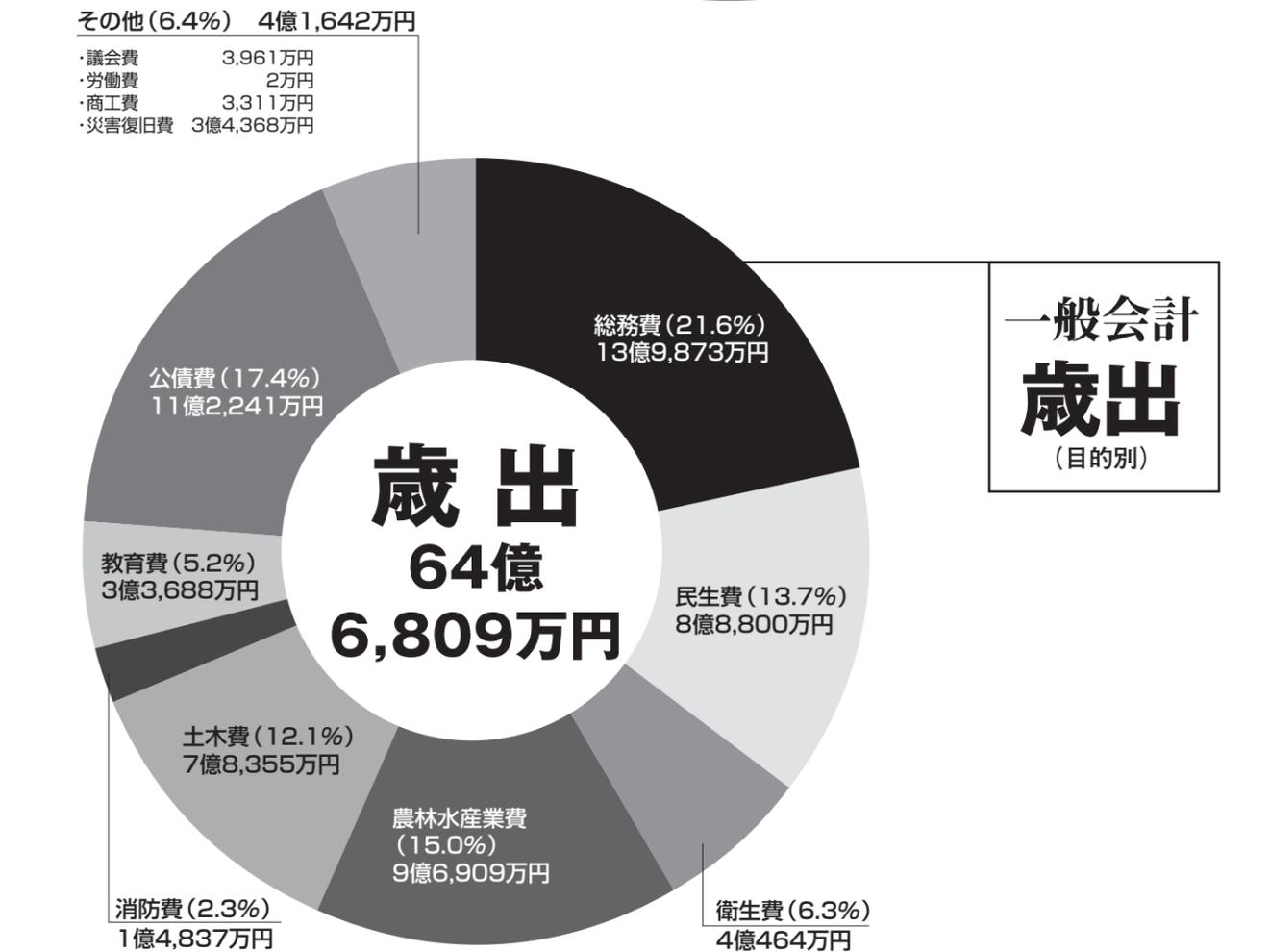
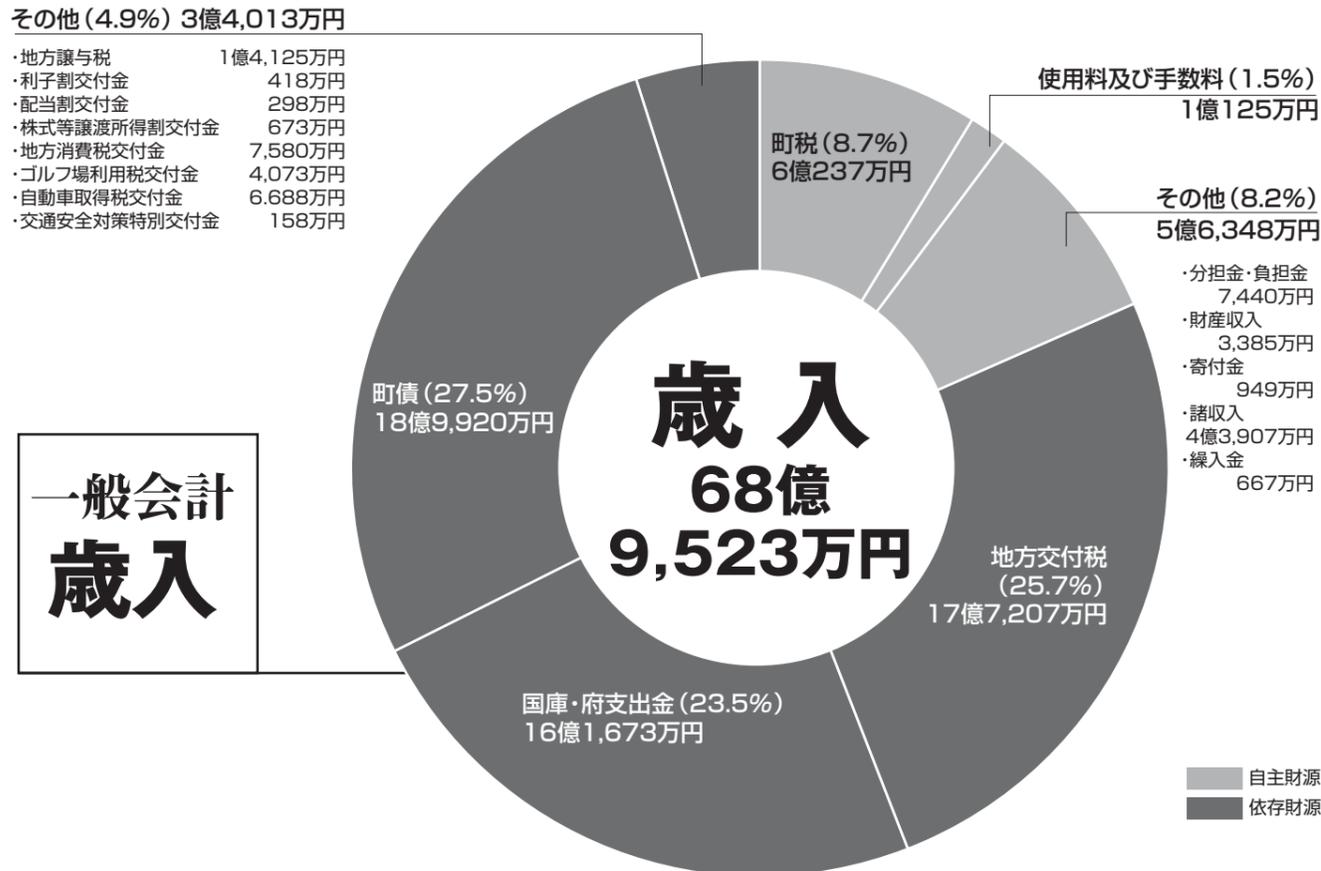
CONTENTS

特集・平成17年度まちの決算	2~5
総合計画審議会情報 住民アンケート結果まとまる	6・7
国民保護協議会と防災会議がスタート	8
虐待から子どもを守ろう	9
フラッシュ TOWN NEWS 2006	10・11
地域の伝言板「わくわくBOX」	11
町営バスに新車両を導入	12

平成17年度まちの決算 総額118億円

合併初年度の平成17年度（10月11日—平成18年3月31日）の決算がまとまり、9月の議会定例会で承認されました。

歳出決算総額は118億5,176万円（1万円未満四捨五入、以下同じ、財産区会計除く）。内訳は一般会計が64億6,809万円、特別会計が53億8,367万円となりました。



一般会計「歳入」

一般会計「歳出」

町税収入や使用料・手数料、財産収入など、町が自らの力で収入できるお金（自主財源）は歳入全体の約一八％で、残りの約八二％は、国・府からのお金や、町債（借入金）などに頼っている状況です。

自主財源の柱である町税収入は、六億二二七万円（全体の八・七％）で、収入できなかった未徴収額が、約二億二、九〇〇万円。今後、町税収入をしつかりと確保していくため、本年度設置した「税等徴収対策委員会」などを通じて、徴収機能を強化していきます。

一方、依存財源には大きく分けて、地方交付税や国庫・府支出金など、国や府から交付されたり、割り当てられたりするお金と町債があります。

町債は道路や施設を整備するために借り入れるお金で、一八億九、九二〇万円（全体の二七・五％）。このうち地方交付税で措置されるべき額の不足を補うため、四億四、〇〇〇万円の臨時財政対策債を発行しました。

歳入のグラフで示すとおり、自主財源が少なく、国や府への依存率が高い本町にとって、地方交付税や国庫補助負担金の削減・縮小など近年、国が進める地方行財政改革による影響は大きく、今後ますます歳入の確保が厳しくなることが予想されます。

歳出決算額は六四億六、八〇九万円。歳入総額から歳出総額を差し引き、さらに平成十八年度へ繰り越した一、八九二万円を差し引いた実質収支額は四億八二四万円の黒字になりました。

一方、財政の弾力性を判断する指標である経常収支比率は九三・六％。経常収支比率とは、町税など毎年度経常的に収入できる一般財源を、人件費や公債費（道路や施設を整備するために借り入れたお金の返済金）など毎年度経常的に支出する経費にどれくらい充てているかをみるものです。

この比率が高くなるほど自由に使える財源（お金）が少なく、財政運営が厳しくなります。普通七〇—八〇％が標準的とされ、これを著しく超えている本町の財政状況には余裕がなく、硬直化を示しています。今後、既存の事務・事業を抜本的に見直し、経常費の抑制に努めていかなければなりません。

平成十七年度一般会計歳出の主なものは、合併に伴う庁舎改修、電算システムの開発など合併推進費（四億五五二万円）、和知地区の地域インターネット基盤整備（二億七、六一五万円）、障害者支援費（八、〇〇二万円）、担い手農家の支援・特産物作付助成など水田農業構造改革対策助成事業（一、五二七万円）、町道の改良・舗装工事（三億一、三五一万円）など。このほか次ページのとおり支出しました。



黒大豆畑(富田)



町道東又線改良(東又地内)



瑞穂中体育祭

農林水産業費 9億6,909万円

○農業委員会関係事業	703万円
○中山間直接支払事業	9,819万円
○水田農業構造改革対策助成事業 (担い手支援、特産物作付助成など)	1,527万円
○有害鳥獣防護柵等設置事業	523万円
○南丹区域農用地総合整備事業	1億4,047万円
○丹波食彩の工房運営費	4,101万円
○農村情報施設(CATV)管理費	5,219万円
○道の駅「和」・山野草の森管理委託	1,121万円

土木費 7億8,355万円

○町道改良・舗装工事	3億1,351万円
○交通安全施設設置	374万円
○河川改良	728万円
○ダム関連対策事業負担金	2,318万円

消防費 1億4,837万円

○防火水槽設置工事	2,603万円
○京都中部広域消防組合負担金	8,244万円

教育費 3億3,688万円

○小・中学校・幼稚園の管理	1億1,607万円
○学校給食費	3,255万円
○集落公民館改修事業補助	98万円
○文化財保護事業	157万円
○体育協会補助・体育指導委員設置	63万円

会計別	平成17年度決算額
一般会計	64億6,809万円
特別会計・企業会計	53億8,367万円
国民健康保険事業 (事業勘定)	9億9,555万円
(質美診療所)	1,098万円
(和知診療所)	2億3,419万円
(和知歯科診療所)	4,860万円
老人保健	12億6,613万円
介護保険事業	8億 991万円
水道事業	10億6,142万円
下水道事業	5億1,781万円
土地取得	274万円
育英資金給付事業	52万円
町営バス運行事業	4,884万円
宅地等開発事業	207万円
瑞穂病院事業	3億8,491万円

会計別歳出決算額



合併記念式典(蒲生野中アリーナ)



町営バスの運行(和知中学校前、大倉)



乳児健診(瑞穂保健福祉センター)

**一般会計【主なもの】
 こう使った64億円**

総務費 13億9,873万円

○京丹波町合併記念式典	289万円
○アスベスト調査業務委託	1,008万円
○山陰本線複線化事業補助金	2,383万円
○町営バス運営調査業務委託	21万円
○合併推進費(庁舎改修、備品購入、電算システム開発など)	4億 552万円
○地域イントラネット基盤施設整備(和知地区)	2億7,615万円

民生費 8億8,800万円

○障害者共同作業所入所訓練事業補助	2,673万円
○障害者支援費	8,002万円
○老人医療給付費	1,801万円
○乳幼児医療・すこやか子育て医療給付費	2,212万円
○保育所の運営管理	6,455万円

衛生費 4億 464万円

○各種健(検)診	1,709万円
○予防接種業務	1,326万円
○船井郡衛生管理組合分担金	7,786万円
○合併処理浄化槽設置補助	799万円

一般会計歳出 町民 一人あたりに 換算すると 平成18年9月1日現在の 人口17,723人で 計算しています。	農林水産業費 54,680円	衛生費 22,831円	民生費 50,104円	総務費 78,922円
	公債費 63,331円	消防費 8,372円	教育費 19,008円	土木費 44,211円



総合計画 審議会情報

住民 アンケートの 結果まとまる

京丹波町総合計画の策定に向け、今年七月に町民三、〇〇〇人（無作為抽出）を対象に実施した「住民アンケート」の結果が、このほどまとまり、九月二十八日に開催した総合計画審議会の第二回例会で示しました。

今回は、このアンケート結果をもとに、今後のまちづくりに対する町民の皆さんの意向などをみていきます。

回答率は四・六%

このアンケート調査は、十八歳以上平成十八年七月一日現在（の京丹波町住民基本台帳および外国人登録から無作為に抽出した三、〇〇〇人を対象に実施。各行政サービスの満足度や、今後のまちづくりの重要施策など十九項目について尋ね、アンケートの回収率は四四・六％（一、三三八件）でした。

回答者を年齢別にみると、六十代が最も多く全体の二二・八％、次いで七十代が二二・一％、五十代が、一七・七％という結果でした。

また、居住歴別では、「生まれてからずっと旧三町に住んでいる」人が三六・九％、「旧三町で生まれ、他の市町村へ転出後、再び転入した」人が二二・〇％、他

の市町村で生まれ、旧三町または京丹波町に転入した」人が三六・三％となりました。

京丹波町の現状の評価

まちの現状について、二十六項目ごとに五段階評価を求めた結果（図一）、満足傾向にあるのは、「下水道・水洗化の環境」が最も高く三・七ポイント（以下「p」）。次いで、「上水道の環境」が二・六p、「ごみ対策やリサイクルの取り組み」が三・四pという結果でした。

一方、不満傾向にあるのは、「雇用の場の状況」が最も低く二・一p、次いで「鉄道の利便性」が二・二p、「商工業の状況」が二・五pでした。

まちの魅力は「緑」と「食」

「京丹波町の魅力を町外の人に紹介するときには自慢できることは」の問いで、最も多かったのが「自然が多く緑豊かなまち」（七三・〇％）で、次いで、「マツタケ、クリ、黒豆などおいしい食材が多いまち」（五一・九％）、「人情味あふれるまち」（二二・九％）という結果でした。（図二）

今後のまちづくりのあり方について

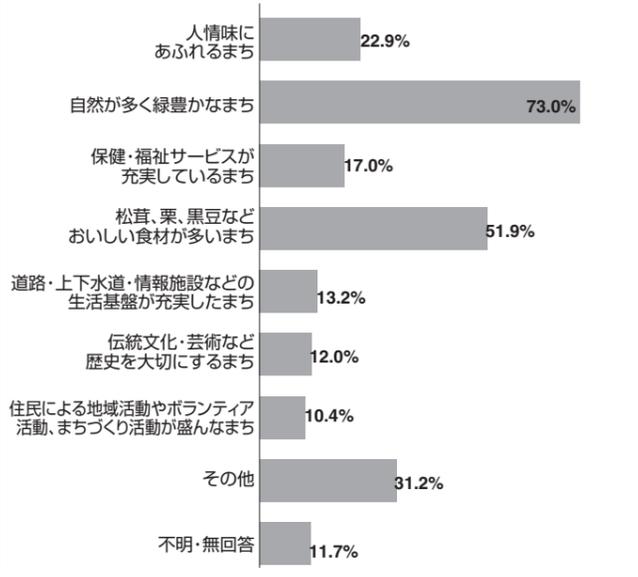
「厳しい財政状況の中、今後、京丹波町のまちづくりをどのような姿勢で進めるべきか」については、全体的に「バランスをとり、各事業を平均的に取り組むべき（四九・六％）が最も多く占め、次いで、「立ち遅れている分野に優先的に取り組む（各事業が縮小されても我慢する）」（二二・〇％）、「重点事業を決めて集中的に取り組む（他の事業が縮小または廃止されても我慢する）」（一四・九％）という結果でした。

また、各分野における今後の主要な取り組みについては、図3から図6のとおりでした。

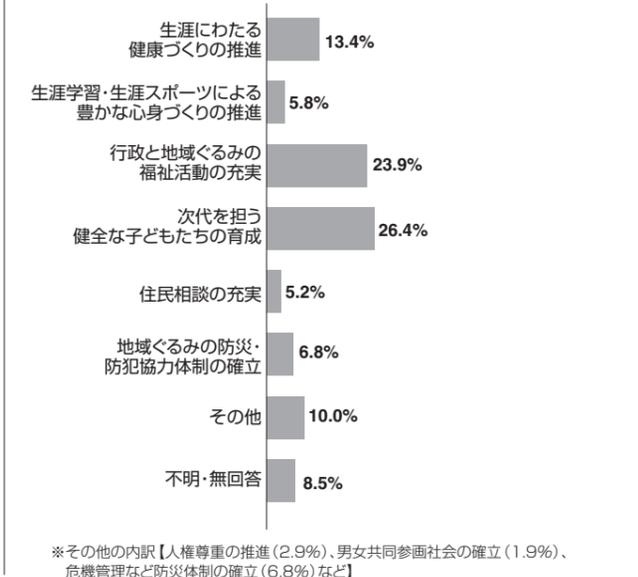
協働のまちづくりポイント

住民主体の地域活動などを推進するために効果的な取り組みや仕組みについて尋ねた結果は、図7のとおり。協働のまちづくりには「活動への参加の機会、場づくり」を進めるとともに、「まちづくりや地域活動組織の育成」や「人材の発掘や育成」など、地域リーダーの育成が必要だという意向がつかえます。

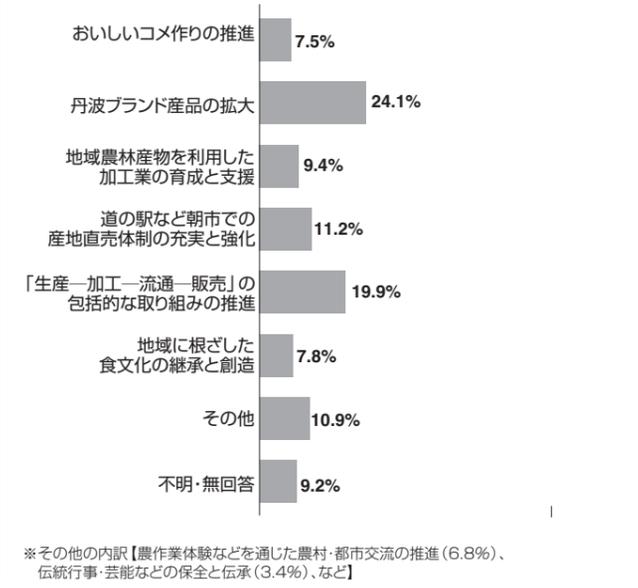
京丹波町の魅力について 図2



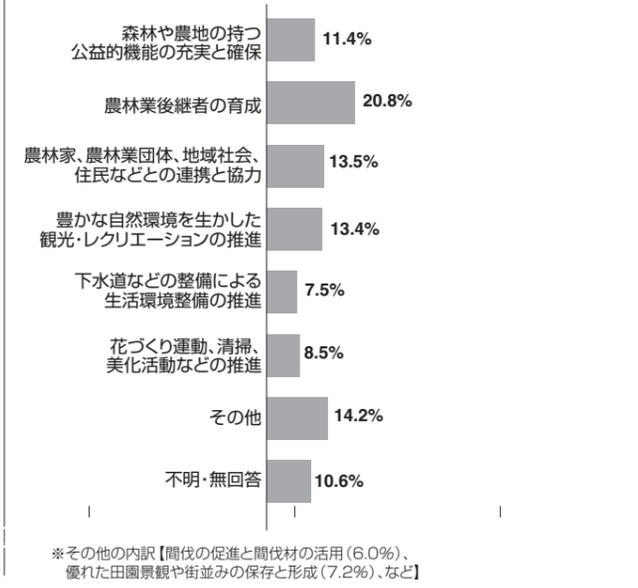
町民が生涯安心して暮らすために必要な取り組み 図3



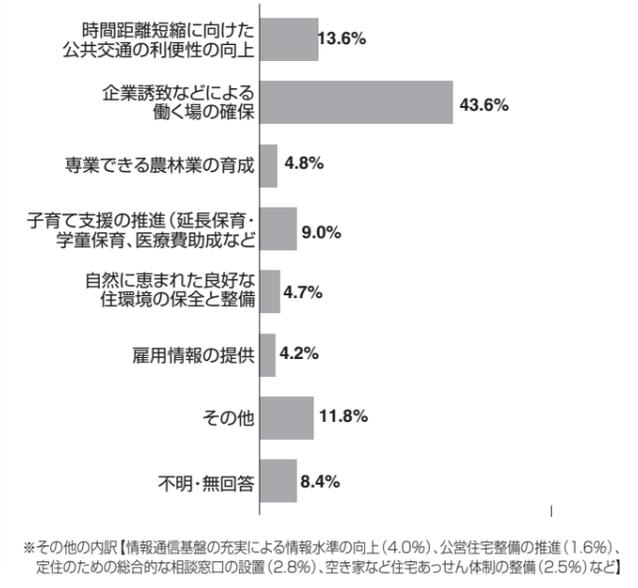
「丹波ブランド」確立のために必要な取り組み 図4



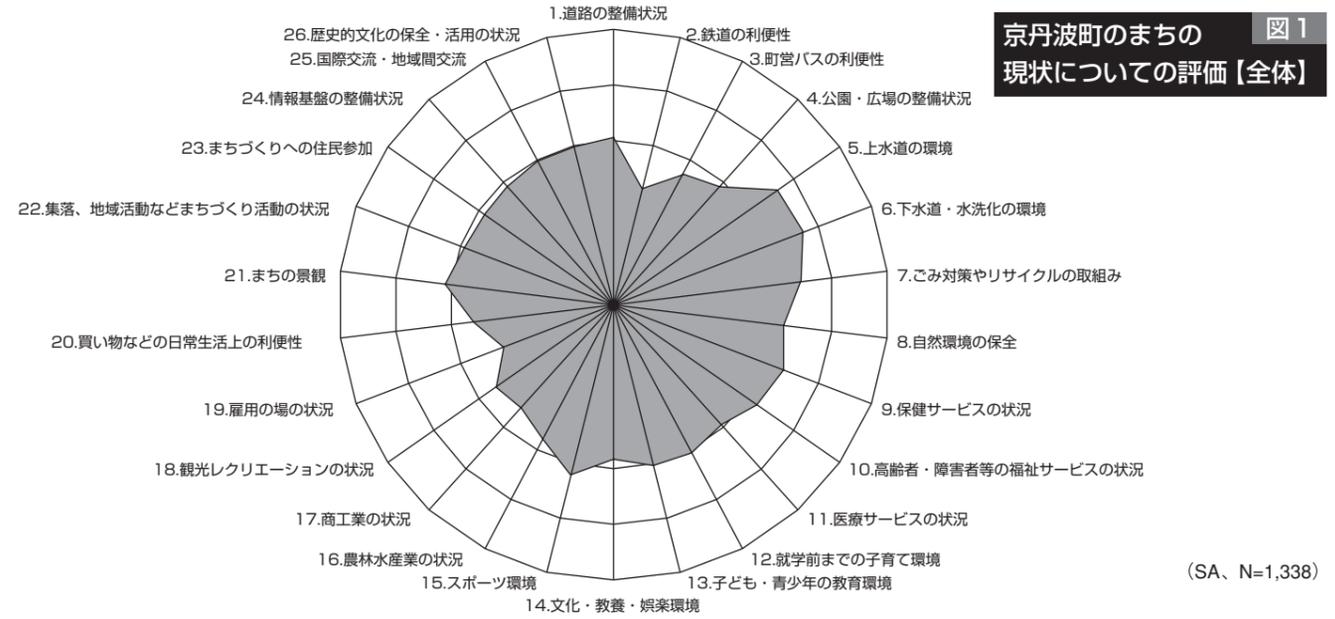
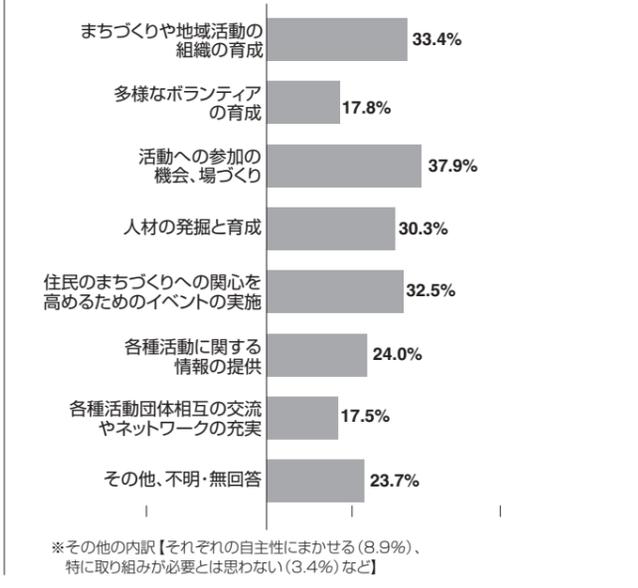
美しい環境を守るために必要な取り組み 図5



若者たちが定住するために必要な取り組み 図6



住民主体の地域活動などを推進するために効果的な取り組みや仕組み 図7



国民保護協議会と 防災会議がスタート

日本への武力攻撃事態などにおいて、住民の避難や救援などの国民保護措置を行うために必要な事項を定める国民保護計画の策定を目指す「京丹波町国民保護協議会」と、風水害や震災対策を定める防災計画の策定およびその実施を推進する「京丹波町防災会議」が発足し、ともに九月二十七日、町中央公民館で第一回会合を開きました。



国民保護協議会の第1回会議(町中央公民館)

国民保護協議会の第一回会合では、松原茂樹町長が、京丹波町における国民の保護にかかる計画策定について諮問。その後の議事では、計画策定にあたっての基本的な考え方や今後のスケジュールなどが確認されました。

同協議会の設置は、平成十六年六月成立した「国民保護法」によるもの。法律では、市町村は国や都道府県、指定公共機関などと連携し、住民の避難・救援、被害の最小化など国民保護措置を実施する役割を担い、そのために必要な事項を定める「国民保護計画」を策定することになっています。

昨年度、京都市府が同計画を策定したことを受け、本町は今年度中に、同協議会での審議を経て国民保護計画を策定する予定です。

また、同日、防災会議の第一回会合を開催しました。同会議は、災害対策基本法で義務付けられている防災計画の策定とその実施の推進のために設置したもので、本町は、同会議の意見を聞きながら、風水害対策を盛り込む一般計画編と、震災計画編、資料編の三編からなる「京丹波町防災計画」を今年度中に策定する予定です。

■国民保護協議会・防災会議委員(敬称略)

会長／松原茂樹・京丹波町長

国民保護協議会		防災会議
氏名	職名など	氏名(役職)
佐古 康廣	国土交通省近畿地方整備局 福知山河川国道事務所長	同左
片平与志也	陸上自衛隊第7普通科連隊 重迫撃砲中隊長	//
中村 実	南丹広域振興局企画総務部長	//
大和田 仁	南丹広域振興局建設部長	//
横田 昇平	南丹広域振興局健康福祉部長	//
野口 武英	南丹警察署長	//
上田 正	町助役	//
堀 郁太郎	町助役	//
山本 和之	町教育長	//
野々村邦広	園部消防署副署長兼警防課長	廣瀬仁久 (園部消防署丹波出張所長)
田淵 敬治	町参事	//
米田 義一	日本郵政公社(丹波郵便局長)	//
前田 貴宏	西日本電信電話(株) 京都支店設備部長	//
山村 孝秋	関西電力(株)園部営業所長	//
森 良行	町消防団長	//
岡本 勇	町議会議員	//
青木眞一郎	船井医師会(丹波笠次病院長)	//
谷 勝彦	町区長会長	//
堀 吉宏	商工会(和知町商工会長)	//
後藤 敏和	町社会福祉協議会	//

虐待から子どもを守る

早期発見・早期対応のために

近年、全国で児童虐待事件や児童相談所に寄せられる相談件数は増加傾向にあり、本来、子どもを守るべき立場にある親や親に代わる保護者の「子どもへの虐待」が深刻な問題になっています。

児童虐待の防止や早期発見・対応には、住民、地域、学校、医療機関など地域のさまざまな主体のネットワーク形成が重要です。

十一月は「児童虐待防止推進月間」。この機会に、地域に住むわたしたち一人ひとりが児童虐待防止への理解を深め、子どもたちを注意深く「見守る目」を持つことが大切です。

ネットワーク会議の概要

京丹波町では今年七月、「京丹波町児童虐待防止ネットワーク会議」を発足させました。

同会議は、児童虐待防止法の改正に伴って発足したもので、関係機関が連携して情報の共有化を進め、虐待の予防と早期発見・対応、相談体制の整備などを図っていくのがねらいです。

同会議は、京都児童相談所や町主任児童委員など児童福祉関係団体の関係者をはじめ、町内の医療機関、学校、幼稚園、南丹保健所、南丹警察署などの関係者ら十五人で構成しています。また、具体的な児童虐待事例の対応、支援を行うため、児童相談所や保健所など実務者レベルでつくる「児童虐待防止実務者会議」を設置しています。

同会議の全体像は図一のとおり。町保健福祉課を窓口として、町民や関係機関から受けた相談・通報を児童相談所や保健所などと協議を行い、事態の危険度や緊急度を判断し、実務者会議などで具体的な対応や支援を話し合い、その結果に基づき、関係機関が役割分担して、適切な支援を行っていきます。

緊急を要する場合は、児童相談所が中心になって、子ども

虐待をより早く発見するために

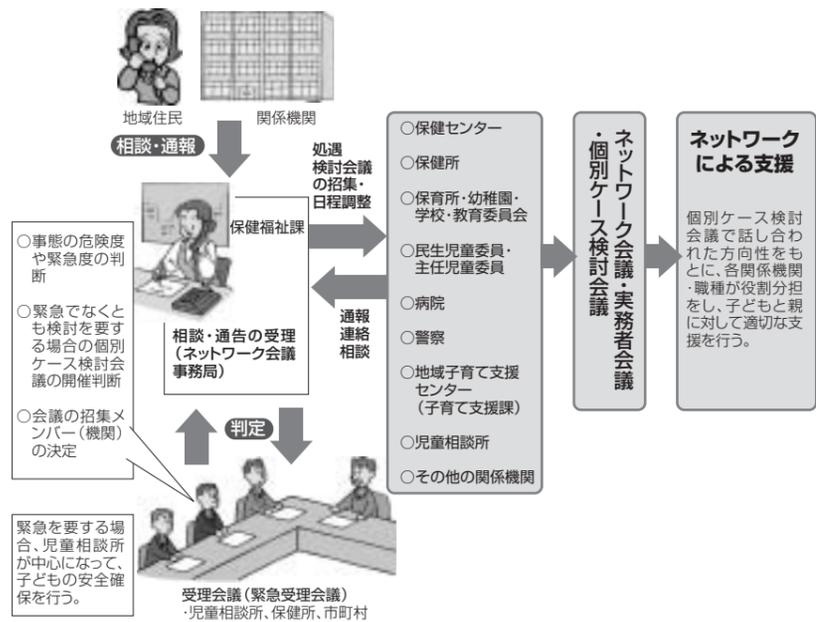
児童虐待は、家庭という密室で行われます。そのため、虐待を発見することは困難ですが、児童虐待が起った事例などをみると必ず、虐待の兆候と思われるできごとが表れていることが後でわかります。

保護者から子どもへの虐待行為は、子どもの心身に深刻な影響を与える前に、より早く発見して対処することが重要です。そのためには、身近な住民、地域、保健福祉・教育、医療機関の専門家などが、子どもたちの異常に早く気づくことです。虐待の兆候を見つけたら、気づいた

■主な相談機関

- 保健福祉課 電話／八二一八〇〇
- 京都児童相談所 電話／〇七五—四三三—三三七八
- 南丹保健所 電話／六二—四七五二

【図1】京丹波町児童虐待防止ネットワーク(全体像)



緊急を要する場合、児童相談所が中心になって、子どもの安全確保を行います。

①児童虐待とは

身体的虐待

殴る、蹴る、熱湯をかける、タバコの火を押し付ける、戸外に閉め出すなど

性的虐待

子どもへの性的行為の強要、強要して子どもの裸を写真やビデオに撮ることなど

ネグレクト

家に閉じこめる、適切な食事を与えない、病気やケガをしても病院へ連れて行かない、ひどく不潔のままにするなど

心理的虐待

言葉によるおどし、冷たく接する、きょうだい間の差別的な扱いなど

②こんなことが「虐待のサイン」

子どもの様子

- 不自然な傷(あざ、やけど)が絶えない
- 身体、衣服がいつも不潔
- 夜遅くまで外で遊んだり、うろついたりしている
- 表情が乏しく元気がない
- 常にお腹を空かせていて、与えると隠すようにガツガツ食べる
- 極端にやせていたり、身長が異常に低い

親の様子

- 子どもが病気やケガをしても病院へ連れて行かない
- 小さな子どもを置いてひんぱんに出かける
- 食事をきちんとさせず、身の回りの世話もしない
- 飲酒し暴れることがたびたびある
- 地域の中で孤立し、子どもに関する他人の意見に被害的、攻撃的になりやすい
- 子どもへの態度や言葉が否定的で冷たい

これらのサインがあるからといって、すぐに「虐待」と決めつけることは適当ではありませんが、常に虐待やその兆候を見逃さず、受け止めることが大切です。

地域自立支援協議会が発足

障害者福祉サービスの提供体制の確保や関係機関のネットワークづくり、障害者基本法と障害者自立支援法の施行に伴う障害者をめぐる二つの計画策定などを旨とする「京丹波町地域自立支援協議会」が八月三十日に発足しました。

協議会委員は、協議員や身体・知的障害者相談員、障害者福祉施設関係者ら十五人。同日、瑞穂保健福祉センター（和田）で行った第一回の会合では、会長に上田良一さん（町社会福祉協議会）、副会長に（谷静夫さん）（身体障害者福祉会）が選ばれました。

同協議会は今年度、障害者福祉施策の方針や目標を定める長期計画「障害者計画」と、障害福祉サービスの具体的内容をまとめる短期計画「障害福祉計画」の策定に取り組みます。

九月二十七日には第二回の会合を瑞穂保健福祉センターで行い、ワークショップ形式で障害福祉を取り巻く課題の解決のためのアイデアや意見を出し合いました。



ワークショップでアイデアを出し合う委員（瑞穂保健福祉センター）

親父の料理教室を開催

中高年の男性を対象とした「ワンクッキング」親父（おやじ）の料理教室」が九月十六日、町中央公民館（蒲生）の調理実習室で開催され、町内の中高年男性六人が参加。講師の京丹波町食生活改善推進員協議会（くるみの会）丹波支部のメンバーらに、揚げ物やスープなどの料理を教わりました。

この教室は、近年、共働きが多い中、男性にも家事への理解を深めてもらうことなどを目的に、町教育委員会と、くるみの会丹波支部が初めて開催。教室に参加した山本達雄さん（塩田谷）は「妻の勤めもあり参加した。これを機に家でも料理をやってみよう」と話していました。



くるみの会丹波支部のメンバー（右）に料理を教わる参加者（町中央公民館調理実習室）

質志鐘乳洞公園 来場者三十五万人突破

質志鐘乳洞公園の入場者が、九月十日に三十五万人を突破。同日、同公園で記念式が行われました。

三十五万人目の来場者となったのは、大阪府枚方市から家族で訪れた中野安優美さん。中野さん一家には花束と記念品が贈られました。

質志鐘乳洞公園が開園したのは平成五年八月。以来、京阪神などから順調に観光客を集め、十三年間で来場者三十五万人を達成しました。



花束を受けとる中野さん一家（質志鐘乳洞公園事務所前）

郷土文化の普及向上を目指して

京丹波町文化協会の設立総会が九月十五日、町中央公民館で開催され、町内の各種文化サークルや民芸団体の関係者ら約四十人が参加。規約や今年度の事業計画、予算が承認されました。

同協会の設立にあたって、丹波・瑞穂・和知の文化サークル・民芸団体の関係者らが今年六月から協議を開始。旧和知町文化協会の組織形態をベースとして京丹波町文化協会を立ち上げました。

同協会には舞踊や大正琴などのサークル・同好会、和知地区の各民芸保存

会など五十三団体が加盟。初代会長に就任した山内勝次さん（弁谷）は「文化活動の盛んな町は活気があるといわれている。関係団体がお互いの良さを吸収し合い、郷土文化の向上と発展を目指していきたい」と話していました。

役員は次の方々です。（敬称略）
会長／山内勝次（弁谷）
副会長／大崎孝雄（水戸）
▼山内／三男（井脇）



あいさつをする山内会長（町中央公民館）

和知中で初のスピーチコンテスト

和知中学校（友松勝之校長、生徒数百人）のスピーチコンテストが九月二十六日、同校で行われ、各学年から選ばれた十六人の生徒が、英語で自己紹介や修学旅行、夏休みの思い出を発表し、他の生徒や保護者、地元須知高校の教師らが見守る中、日ごろの学習の成果を披露しました。

この取り組みは、英語で話す力や自分の考えを表現する力を高めることを目的に、同校が初めて開催。発言席に立った生徒たちは、緊張しながらも落ち着いて英語でスピーチし、発表を終え、会場に拍手がわき上がると、安どと達成感のある表情を浮かべていました。

この日のコンテストには、九月二十二日から交換留学として和知地区を訪れたニュージーランドのタイエリカレッジの生徒や引率の教師ら十人も参加。生徒たちのスピーチにあたたかい拍手を送っていました。



英語でスピーチする生徒（和知中学校）

町有地の放置車防止へ

町有地など公共の場所に放置された車、自転車、バイクについて一定の手続きを踏めば、町が撤去できることなどを定めた「放置車防止条例」が九月議会定例会で可決。九月二十九日に施行しました。

これにより町は、町有地などに放置された車や自転車の所有者を調査し、

持ち主が判明しないときは、車体に警告書を貼り、一週間そのまま放置されていけば、車両を移動させて、町で六カ月保管。その後も所有者が現れない場合は、町が廃棄や売却を行います。

現在、町有地には車二台が放置されており、警察に照会するなど調査を行っています。

地域の伝言板 わくわくBOX

読者の皆さんが情報発信するコーナー

広報京丹波お知らせ版（八月号）の「九月十日は「下水道の日」です」の記事を見てペンをとりました。

月に二回、下水道のマスなどを掃除していますが、その時わたしは重曹（重炭酸ソーダの略）を使っています。

また、作業着など汚れた激しい衣類などは、耳かき一杯程度のクエン酸と、洗剤スプレー三杯の重曹、洗剤を少し入れて洗たくすると汚れがよく落ちます。そのほか、重曹を使ってお湯で食器を洗うとツルツルになりますし、魚焼きグリルのヌメリもきれいに落ちます。一度試してみてください。

重曹を使うと浄化槽にも良く、環境にもやさしいと思います。

（五十九歳の女性）

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたいわたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。

送り先 〒622-0292（住所不要）
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500
Eメール/kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

編集後記

合併から一年が経過した。町では、総合計画審議会の議論が本格化し始め、国民保護協議会や防災会議も発足し、国民保護計画や防災計画の策定に向けた取り組みがスタートしている。このほか、障害福祉をめぐると二つの計画策定の議論も高まりを見せている。合併二年目に突入り、京丹波町は将来を見据えて大きく動き出している。こうした町の大きな動きをしっかりと伝え、説明し、情報の共有を図っていくことが広報紙の役割であり、必要性が叫ばれて久しい「協働のまちづくり」への第一歩にほかならない。合併一年にあたり、改めて広報紙のあり方、役割を考えさせられている今日のごろだ。

わたしたちの町

人口	17,691(-32)
男	8,406(-13)
女	9,285(-19)
世帯数	6,492(-13)

10月1日現在 / ()は前月比



町営バスに新車両を導入



中型バス(町中央公民館前)



車両後部の非常表示灯



ノンステップ型の小型バス(松山バスターミナル)



高齢者や障害のある人に配慮したスロープ付き

町ではこのほど、小型バス(ノンステップ型、34人乗り)1台、中型バス(ノンステップ型、59人乗り)2台の計3台の新車両を導入し、10月2日から運行しています。

今回の車両更新は、合併に伴い旧瑞穂町から引き継いだ中型バス(平成3年式、51人乗り)の老朽化によるもの。いずれの車両も購入から15年が経過し、安全性の面において問題があることから新しい車両に切り替えました。

新車両はすべて、低床型でスロープ付き。車内の座席間が広く、ゆったりとしたスペースがあり、車イスでも利用できるなど、高齢者や障害のある人に配慮した構造になっています。

現在、小型バスは瑞穂地区の小野・鎌谷線(松山―瑞穂病院―鎌谷奥)で、中型バスは丹波地区の各路線、瑞穂地区の質美線(松山―瑞穂病院―下山駅)で運行していますので、ご利用ください。

なお、車両後部の電光表示板に「SOOS」が発光しているときは、京丹波町役場へ速やかに連絡をお願いいたします。

おそれ入りますが、車イスでご利用される方は、事前に企画情報課までご連絡ください。
企画情報課交通対策係 電話86-3801

今月の町営バス利用者

このコーナーは、町営バスの利用実態を皆さんにご理解いただくため、毎月、1カ月間の路線ごとの町営バス利用状況をお知らせしています。



9月の町営バス利用者数

()は前月比

路線名	利用者数(人)		
	一般	生徒学生など	計
丹波和知線	680(-401)	3,644(+3,622)	4,324(+ 3,221)
丹波松山線	72(- 40)	2,293(+2,293)	2,365(+ 2,253)
高原下山線	237(- 28)	2,766(+2,766)	3,003(+ 2,738)
竹野線	66(+ 15)	0(± 0)	66(+ 15)
小野鎌谷線	292(+ 51)	946(+ 724)	1,238(+ 775)
猪鼻戸津川線	336(+ 48)	604(+ 480)	940(+ 528)
質美線	767(+121)	1,486(+1,081)	2,253(+ 1,202)
仏主線	423(- 49)	727(+ 309)	1,150(+ 260)
長瀬線	485(-112)	734(+ 442)	1,219(+ 330)
才原大簾線	143(- 33)	2,344(+ 960)	2,487(+ 927)
上乙見線	49(- 6)	1,964(+1,812)	2,013(+ 1,806)
合計	3,550(-434)	17,508(+14,489)	21,058(+14,055)

一般利用者(生徒学生など除く)数の推移

路線名	6月	7月	8月	9月
丹波和知線	747	758	1,081	680
丹波松山線	73	73	112	72
高原下山線	226	184	265	237
竹野線	66	86	51	66
小野鎌谷線	388	294	241	292
猪鼻戸津川線	296	298	288	336
質美線	722	664	646	767
仏主線	457	377	472	423
長瀬線	528	457	597	485
才原大簾線	208	150	176	143
上乙見線	51	28	55	49
合計	3,762	3,369	3,984	3,550